

令和5年度 福井県立道守高等学校 学校評価書(定時制)

注: 成果と課題欄の記号について(◎十分に達成 ○おおむね達成 ▼目標達成できなかった)

項目	具体的取り組み	成果と課題	改善策・向上策
学習指導	学習内容を精選し、分かる授業の工夫に努めることにより、生徒の授業の理解度および単位修得率の向上を図る。	◎教員は、全員が分かる授業に努めることができた。 ○意欲的に学習に取り組めた生徒の割合は、83%という結果となり、目標に達することができなかった。その中でも「はい」と回答できた生徒の方が少ないため、分かりやすい授業や個別支援などより工夫していく必要がある。保護者は、子どもの学校での取り組み(授業や様々な学習活動)について意欲的に取り組んでいたと考えている(93%)。	・生徒に合わせて授業を工夫し、生徒が分かる授業に努めていく。また、他校の公開授業や授業研究会等に参加したり、校内でも積極的に研修会を実施したりと、教員間で切磋琢磨していく。 ・できるだけ少人数指導を行い、個々の能力に合わせた指導を行えるようにする。 ・スモールステップでの学習で、生徒が達成感を得られるように工夫する。
	生徒、保護者、教員間の連携を密にすることにより、生徒の出席状況について共通理解に努める。	◎教員は、全員が保護者や教員間で生徒の状況を連絡し、情報共有が十分にすることができた。また、子どもの出席状況をしっかり把握していると考えている保護者は96%であり、十分に教員と保護者の共通理解が図れている。 ○84%の生徒が、遅刻・早退・欠席をしないよう努力している。一方で、あまり努力していない生徒もおり、今後も教員の働きかけや保護者の支援が必要と思われる。	・必要に応じて、生徒に出席状況表を渡し、出席状況をできるだけ自分で把握するように働きかけ、単位修得に向けて見通しを持つことができるようにする。 ・学校を休まず、授業に出席し、意欲的に学習に取り組むよう、生徒に働きかける。 ・生徒の学習状況や出席状況を、適宜、担任・保護者に連絡し、情報を共有する。
生徒支援	社会生活における基本的な生活習慣を確立させるとともに、スマホの使い方、SNSの利用マナーなどの規範意識を高めさせる。	◎授業中のスマホ、私語、飲食の禁止など規範意識を持って学校生活を送ることができたかを確認した結果、教職員の取組指数100%、生徒の成果指数92%と非常に高い結果となった。授業での重点目標を、「飲食しない」「私語をしない」「スマホ等を使用しない」の3点に絞り、繰り返し周知する機会を設けたことで、学校全体で意識を共有できたことが好結果につながったものとする。	・落ち着いた授業を来年度も継続していくためには、授業での重点目標を年度当初に周知徹底し、今後も継続していく必要がある。特にスマホの使用についてはSNSでのトラブルも多い状況が続いているので、授業中だけに限らず、日常生活での使用についても指導していく必要がある。
	学校行事や部活動に生徒自らが主体的に取り組もうとする態度を培わせる。	◎教職員への「学校行事や部活動において、生徒一人一人が達成感や満足感を感じられるような活動になるよう工夫できましたか」という項目においては取組指数100%と非常に高かった。この結果は、学校祭や遠足などの学校行事、日々の部活動など、生徒のために活動している教職員の姿を反映している。 ○生徒への「学校行事に積極的に参加したり、部紹介や壮行会を通して部活動について理解できましたか」という項目については83%、保護者へお子様がどのコースに所属していても学校行事や部活動に参加しやすい環境であることをご存じですかという項目については84%と目標よりは高かったものの、一定数が否定的な回答であった。より学校生活が充実したものになるよう、授業以外の学校の魅力を今後も発信していく必要がある。	・学校行事や部活動の紹介の場を増やすため掲示物を貼る。 ・HP等で学校行事や部活動の生徒の活躍状況を積極的に発信する。 ・アルバイトと部活動を両立できるよう、部員との親密なコミュニケーションを継続し、部活動の活動時間の確保・調整を進める。
進路支援	進路図書部、担任、教科担任および関係機関との連携を密にし、生徒の状況に応じた進路指導を行うことにより、生徒の進路実現に努める。	◎教員や保護者が生徒と進路の話をしたと答える割合は、昨年度同様それぞれ92%、74%と高く、目標を達成している。生徒の先生や保護者と進路の話をしたと答える割合は78%であり、目標を達成している。これは、昨年に引き続きLH等において進路サポートプログラムも含め進路指導を続けたことで担任と進路について話す機会を確保できたためと思われる。今後も継続して各機関と連携し、進路実現を図っていく必要がある。	・生徒や教員が必要な情報を得るために、今後も、継続して資料閲覧や掲示の環境を整備する。 ・担任、関係機関と連携し、生徒がスムーズに助言や支援を受けられるようにする。 ・進路希望調査の実施や担任と連絡を密にすることで、悩んでいる生徒に早い段階で気づき、解決を図る。
	各学年に応じた進路ガイダンス等を実施することで、早い段階から生徒に自分の進路についての興味や関心を高めるように努める。	◎進路ガイダンスや個人面談などで進路について考えた生徒の割合は74%。これも昨年より継続して行ってきた進路サポートプログラムを含めて担任主導での進路指導を計画的に実施した成果である。今後も生徒が進路についてより一層関心を高められるよう、担任が計画的により充実した進路指導が行える支援をすることが課題である。	・今後も早期から進路指導を積み重ねる。 ・担任がクラス単位でより充実した進路指導ができるよう支援する。 ・進路サポートプログラムを一層充実させ、LHで担任による進路指導の時間を計画的に実施してもらうよう工夫する。

ICTの活用	<p>教員が授業やLHなど様々な場面でICTを活用するとともに、生徒一人ひとりがタブレット端末を積極的に活用できるよう支援する。</p>	<p>◎ほとんどの教員がICTを授業やLHにおいて積極的に活用できたと回答した。今年度、ICTの活用に関する校内研修会が実施され、授業への具体的な活用方法を知ることができた。 ○タブレット端末を使ったことで授業内容への興味・関心が高まったと考えている生徒は83%と目標を達成できた。授業でのタブレット使用を増やすことで、生徒がタブレット端末の活用方法を知ることができたと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の具体的な活用方法についての研修会を行い、教員間で情報を共有する。 ・生徒に応じて、タブレット端末の活用方法を工夫するように努める。
読書活動の推進	<p>図書だよりの発行や推薦図書の掲示などを充実させることにより、生徒の読書に対する興味・関心を高める。</p>	<p>▼教員については、図書室を授業やLHで利用した割合は46%であり、目標を下回った。昨年度と同率であり、引き続き、授業やLHにおいて、積極的に図書室を利用してもらうよう働きかける必要がある。 ○図書だよりの推薦図書の掲示などを見て、読みたいと思う本があったと答えた生徒は46%であり、こちらも目標を下回っている。今後も継続して「図書だよりの発行や各種企画の実施、書籍の配置を工夫して、生徒の読書に対する興味・関心を高めていく取り組みをしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書だよりの発行や推薦図書の掲示などを通して生徒に興味・関心をより喚起する。 ・来年度も気軽に入りやすい図書室にする。 ・引き続き、授業やLHでの積極的な図書室の利用を、教員に呼びかける。
心身の健康管理	<p>個別指導を重視し、保健室来室者への指導を充実させるとともに、保護者と連携しながら健康診断結果に基づく指導に努める。</p>	<p>◎教員の取り組みについては昨年度の100%から96%へ若干下がったが、目標達成はできた。新型コロナウイルスが第5類になった後も、感染症対策や熱中症対策など、引き続き全教員に周知徹底することにより、校内全体で健康管理について高い意識を持続していく必要がある。 ◎新型コロナウイルスが第5類になったことにより、生徒の登校時の検温・手指消毒等の感染予防の意識が薄れ、昨年度92%が84%に低下した。感染への恐怖から予防の啓発へと、意識の変化に応じた指導を行っていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断結果に基づく医療機関への受診の促進を、保護者との連携を図りながら継続的に実施する。 ・保健だよりの掲示物による情報発信と、保健室来室者への個別指導を通して、健康管理と感染症対策に関するより一層の意識向上に努める。
メンタルケアの充実	<p>清掃活動の習慣が定着するよう指導し、生活環境の美化に対する意識を高める。</p>	<p>◎積極的に清掃指導を行った教員は100%から96%へ若干下がったものの、清掃への取り組みのよい生徒は昨年度と同じ89%という良好な結果となった。積極的に取り組んだという回答の割合が高いというアンケートの結果からは、清掃の習慣をつけることができているといえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃については、担任および清掃監督教員のきめ細かな指導が不可欠であるため、改善点があれば考慮しつつ指導がしやすい清掃割当を工夫する。 ・ゴミ箱の大きさと色を工夫することにより、生徒が自主的に分別に取り組めるような環境作りに努める。
連携	<p>教育相談についての校内研修を充実させ、教師一人一人の技量を向上させると同時に、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等と積極的に連携し、生徒・保護者への支援体制を充実させる。</p>	<p>◎教員の取り組みは96%と高く維持できており、また、生徒や保護者への教員の対応についても、生徒と保護者どちらの満足度も目標を大きく上回った。今年度は就労支援に関する研修会やスクールカウンセラーによる教育相談研修会を実施した。教員が継続して生徒理解を深め効果的な指導法を知ること、悩みを持つ生徒の心のケアに努める資質を養うことができる。今後も教員はカウンセリングマインドを身につけ、相談室は悩み事を相談しやすい体制を整えて、多様化・深刻化している生徒の悩みを早期に受け止め支援していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も具体的な事例に即した研修会を行い、生徒理解を深めたり効果的な指導法を知ったりするなど、教師一人一人の技量の向上を目指す。 ・学校単独で対応の難しい事例については、関係機関との連携を進めることで、適切に対処する。
連携	<p>学校より発信した情報への、保護者の関心を高める。</p>	<p>○学校からの配布物を確認している保護者は79%と昨年度の85%よりも低くなり、目標を達成することができなかった。保護者が学校からの案内や育友会報などの紙媒体での閲覧率の低下がうかがえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会全体の情報入手先が紙媒体からデジタルへと移行している中、紙媒体の閲覧率の向上だけではなく、情報提供のあり方全般について検討していく。